

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様同士の助け合いの場面を増やせるように職員間で話し合い日常のケアにつなげている	理念である「戸外に外出すること」は毎日の散歩、「体を動かすこと」は毎日の体操、「お互い様の気持ちで生活すること」は利用者同士の助け合い支援、として具体的な実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のウォーキングや散歩で近隣、公園内で挨拶や声掛けをしています。近隣の図書館へ行かれる方もいます。クリーンデーへの参加、町内の防災訓練への参加もあります。	設立後20年以上たち、地域住民とのつながりは深く、町内の一員として自治会にも所属しています。毎日の公園への散歩では馴染みの住民とのあいさつを交わし、町内の防災訓練やクリーンデーへも参加をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は何もしていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。ご意見をいただきサービス向上につなげております。	運営推進会議は2か月に1度開催しています。通常、地域包括センターの職員が参加し、年に1度、市役所職員も参加しています。そこでは活動報告と意見交換を行い、日常のサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を築いて丁寧な説明を受けられるようにしたいです。	松戸市高齢者介護保険課との間で協力関係を構築しています。時には地域住民にグループホームの周知を図るために、市の関係窓口パンフレットの据え置きをお願いするなど、積極的なアプローチを実践しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの中に個別ケアリストを使用しケアのあり方を考え、せかさなケア、スピーチロックを中心に身体拘束廃止の内部研修を行っています。外部研修にも参加し職員間で共有しています。	管理者は「千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止指導者研修」を受講し、講師として内部研修を実施しています。内部での研修では職員が利用者を演じ、職員の権利擁護に反する発言を検証し、実効性のある研修を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回、施設内研修として課題を職員間で話し合いロールプレイングを用いて実際のケアに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は使用しているも、職員すべてが制度のことを熟知はしていません。権利擁護について講習に参加したことがありその資料を参考にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、理解・納得をしていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケートを活かしていたり、ご家族から直接お話をいただいたり、お手紙、メール、電話でご意見をいただくこともあります。	家族からの意見、要望は意見箱を設けず、訪問時やメール、電話などで、直接受けています。意見を反映した例として、家族からのウールなどの良い衣類はネットに入れて洗濯して欲しい、との要望を受け入れ実践しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週4日のミーティングで勉強会をしたりシミュレーションを用いて職員からの意見や提案を聞き気づきや改善点を話し合っています。日頃から職員間で細かい意見を出し合ったり、相談をしています。	管理者と職員のミーティングを週4回開催し、頻繁に意見が言える環境となっています。職員から利用者が体を動かすために利用する施設屋上に屋根をつけてほしいとの要望があり、これを受け入れ設置をしました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ほとんど把握できています。ご本人の長所や得意としていることを十分に発揮できるように支援しています。研修等の参加促進、労働時間、勤務日も殆ど希望が通っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、オンライン研修の参加、内部研修とも随時行っています。OJTも行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、オンライン研修、G・H協議会などに参加しています。訪問見学はしませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最重要と考え行っています。入所時にご家族からも聞き取り等行い過去の経験等を知り、関係作りに役立っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話を聞いて改善に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をご家族、ご本人から十分得て、安全で安楽な生活が得られることを最優先に行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等の関係を築けるように努めています。すべてのことを否定しないように努めたことで、支え合う関係を実感できました。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	短時間の面会時にご本人の様子をお伝えしている以外にも毎月のお手紙。写真でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との手紙や電話でのやり取りや玄関内外での対面の面会は可能にしております。面会時に直近の様子をお伝えし、面会に来られないご家族には電話してお伝えしています。	コロナ禍の第5類への移行後、感染予防に注意を払い、施設の敷地内で直接の対面を可能にしています。馴染みの病院や美容院、図書館などには外出支援を行い、関係が途切れない配慮をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で参加できるレクリエーションは難しい状態なので、レベルに合わせたレクリエーションを同じ位のレベルの方と行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にもご家族からご連絡をいただけることもありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今のご本人の状態に合わせ、個別に思いに寄り添い安心して楽しく生活できるように日頃から個別の支援方法を話し合っています。	会話の困難な利用者には、本人が楽しい気持ちでいれるような雰囲気づくりを心掛け、表情を読み取り、意思疎通を図っています。職員の担当は固定せず、月に1度ローテーションを行う事で、全利用者への適切な介護が出来るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りし、これまでの暮らしについて把握し、ご本人がこれまでの暮らしのどこに、今居るのかを考えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努めています。 日々の一人ひとりの観察がとても大事だと考えています。ミーティング等で意見を出し合い情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたって、ご本人の今の思いを中心に個別ケアリスト、ケアプラン、モニタリング、内部研修を細かく開催し話し合いをしています。	介護計画は職員が話し合いを行い、利用者の要望や状況を踏まえて作成しています。また、利用者の現状に即した介護のため、半年に1度、見直し会議を行い、個別ケアリストを作成し、これを活用しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、すべての職員が目を通しており、気付いた点をミーティングで介護計画にも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化に合わせて対応しています。(排痰の困難な方にはタッピング、下肢の浮腫にはマッサージ、四肢の委縮には伸展・屈曲運動を施行)衣服・日用品などの必要な物の買い物のお手伝いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人でホームを出てしまった時など知らせていただいた時もありました。散歩は緑豊かな広場に毎日行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の訪問診療時にも細かい意見を聞き、ご本人の身体の状態に合わせて追加で受診が必要になる場合も対応しています。	体温、血圧やSAT測定などバイタルサインチェック表を活用しながら健康状態を把握しています。協力医院による月1回の往診以外に、かかりつけ医に家族同伴で受診し、対応が難しい場合は職員が代行して情報共有を図ります。	処方内容のラベル貼付などの要望を薬局に伝えて相談したり、工夫して対応できるように期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察が十分できており、即報告、即対応しており利用者さんは適切な支援を受けられていると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	二つの協力病院とも、認知症の方を十分理解してもらっており、早期治療、退院に向けて協力的です。各人の特徴も伝えてあり、治療方針にも活かしてもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後早い段階でご本人、ご家族と話し合っています。3ヶ月に1回看取りの研修を行っており、年1回ご家族へ終末期に関する同意書で確認をとり、ご本人とご家族の思いに寄り添い支援しています。	終末期における本人・家族の意思や、状態悪化に伴う緊急時の救急搬送に関して家族の意思を確認し、同意書で方針を共有しています。また看取り研修を定期的実施し、知識を深めて実践に活かしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は心肺蘇生術、誤嚥対処法、止血法、生命徴候のとり方等定期的に訓練していましたが、最近は定期的にはしていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内避難訓練、消防者指導の避難訓練、町会の避難訓練に利用者さんと職員で参加し火災時、地震時の避難方法を訓練しています。発電機を設置したので作動方法、ライフラインが止まった場合のシミュレーション、訓練を行います。	消防署指導による施設内訓練や町内会の避難訓練に参加しています。地震や火災などを想定したBCPを策定し、備蓄品の準備、ライフライン停止に備えた訓練の実施や発電機を設置しています。また災害連携施設を決定し協力要請しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束、虐待の内部研修を定期的に行い日々のケア内容につながるよう取り組んでいます。	尊厳に配慮し、トイレ誘導の際に小声で促すなど細やかな気遣いをしています。また身体拘束マニュアルに基づき支援しています。研修では日頃の言動をロールプレイで振り返り、外部研修の参加者による伝達講習を実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に気をつけて声掛けして、ご本人の思いを引き出すようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアリストの中でご本人の困っていることについてチームで話し合い、不安なく生活できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は、その人らしくきれいにされており、さりげなく合う服を進めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食材の皮むぎ・餃子包みをしていただける利用者さんもおります。利用者さんのお誕生日や内イベントで職員の手作りケーキを提供しておりとても喜ばれております。食材に興味をもてるようレクリエーションにも取り組んでおります。	食事内容を利用者と職員とが一緒に相談して決定し、調理や片付けも手伝っています。またイベント食は四季折々の彩りも良く、誕生日会には職員の手づくりケーキで祝福し喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶・スープをあまり飲めない方には、好きなジュースをお出ししています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態や能力に応じて、声掛け・誘導・見守り・一部介助・全介助にて毎食後の歯磨きをしています。介助の拒否のある方には歯科衛生士さんにケアしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間毎にトイレ誘導し、排尿パターンを把握します。(チェック表に記入) 声掛けまたは誘導することにより、リハビリパンツの使用回数が減る方もいます。	排泄チェックノートを記載し、排泄パターンを把握しながら声掛けや誘導をしています。また、おむつやリハビリパンツを布製の下着に変えられるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れ水分も十分摂っていますが便秘の方が多いです。便秘の改善につながるよう下剤の調整をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に多くて3回で、曜日や時間は決まっていますが、曜日以外での入浴も各利用者さんに合わせて対応しています。入浴拒否の方も多くいますが清潔保持のための個別対応をしています。	1週間の入浴日を3日から5日に増やし、一人ひとりがゆっくりと入浴でき、また柔軟に予定変更できるよう改善しています。個人で異なる拒否理由に配慮しながら入浴の好みを尊重し対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良時、希望時、自ら寝に行かれる方もいますが、ほとんどの方は昼寝はされていません。 ラジオを聴きながら眠られる方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用については十分な把握はできていませんのでミーティングで時々勉強しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理(野菜の皮むき・果物の皮むき・餃子包み)、裾上げ・洗濯物たたみ・床拭き掃除をやっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は毎日のウォーキングや散歩をしています。ご家族が外食に連れて行って下さったりもします。	毎日(主に午前中)の散歩やウォーキングで外出し、利用者の希望に応じて4組程度に分けて支援しています。近隣の公園やお花見、図書館の他に家族対応で外食に出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今では数名しか所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があったり、贈り物のお礼を言う時に電話しています。手紙は以前のように書ける方が少なくなりましたが、しっかりと書ける方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者とスタッフで制作した物や花を飾り明るい雰囲気にしており、季節の植物を利用しカレンダーを作る等季節感も取り入れています。日頃からいろいろな物をレクの話題に取り入れ興味、関心がもてるようにしています。	利用者が生花を活けたり、壁面には制作した季節の花飾りを貼るなど、全体の雰囲気が明るくなるよう工夫しています。リビングのテーブルに集い、それぞれの趣味や得意な事を実施できるよう材料を提供し支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに移動してお話されたり、雑誌などを一緒に見て楽しまれています。気の合う方の席に行き昔話などをされ楽しそうに過ごされています。 居室を訪問したり、されたりしてらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物がある方は、ご家族の方が飾って下さり、使い慣れた物を入れていらっしゃる方もおります。	持ち込み品では飴玉や火気に留意しています。居室には思い出の写真、馴染みの人形や装飾品などで居心地よく過ごせるようにしています。また夜間では照明や、巡視時のドアの開閉を静かに行うなど安眠への配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	矢印などで誘導線を表示したり、手摺やエレベーターの使用で自立に役立っているようです。		